

令和6年度 長崎県立五島高等学校定時制学校評価

校 訓	向学 磨け知性を 融和 語ろう理想を 進取 燃やせ気魄を
スクールミッション	(1) どのような生徒を育成するのか 【社会的役割】 校訓「向学 融和 進取」のもと、社会が抱える様々な課題に向き合い、持続可能な社会の実現に向け、行動できる人材を育成します。また、正しい判断力、倫理観、協働的に取り組む態度を持ち、社会人としての自律の精神および基本的な生活態度と実践力を身に付けた人材を育成します。 (2) どのような教育を目指すのか 【教育理念】 生徒の発達段階に応じたカリキュラムにより、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を育む教育を目指します。また、郷土を愛し、社会への理解を深め、地球環境に視野を広げる態度を育む教育を目指します。 (3) 学科の特色、強み、魅力（独自の教育）等 【今後の方向性】 生徒一人ひとりの実態に応じて、わかる授業を展開し、個に応じた学習指導、進路指導の充実を図ります。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、地域の関係機関と連携を図るとともに、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援に取り組みます。
定時制スローガン	時を守り 場を清め 礼を正し 来て良かった 行かせて良かった 五高定時制
重点努力目標	(1) 挨拶の励行、適切な言葉遣いや端正な身なり、コミュニケーション力の向上を目指した生徒指導の充実 (2) わかる授業や個に応じた指導の実践による基礎学力の向上 (3) 各種検定への積極的な取組と、個に応じた早期からの進路指導の推進 (4) 学校行事や生徒会活動の活性化及びふるさと教育の推進 (5) 生徒一人ひとりを大切にする教育相談の推進 (6) 広報活動の充実

<前年度(R5年度)の分析と改善策>

I 3.0を下回ったもの

項目①	毎時間「振り返りシート(統一様式)」による生徒自己評価を行い、活動を充実させる。(2.9)
分析と改善策	今年度からグループでの探究活動を開始した。初年度として活動の時間確保には注力したが、その活動を振り返る時間は取れず生徒任せになることもあった。授業計画に振り返りの時間を確保したい。
項目②	「キャリアパスポート」を活用し、早期から進路意識を育成する。(2.9)
分析と改善策	本校では、「キャリアパスポート」作成をタブレット入力によって行っているが、生徒の活動や進路講演会などにおいて、振り返る時間を確保できていないことが度々あった。講演の後や活動が一区切りついたとき、長期休業前などに振り返りの時間を確保していきたい。今年度末、集会室にWifiが設置されたので、講演や全体での活動の後、その場で入力させることで確実な指導を行っていきたい。
項目③	模擬面接や学科試験対策など(個別指導)を充実させ、各自の進路実現に必要な力を養う。(2.9)
分析と改善策	中学校までに不登校を経験している生徒が多い。高校では環境が変わり、職員の支援などもありほとんどの生徒が問題なく登校し、授業や学校行事などの活動に参加できている。しかし、自分の進路実現という次のステップには踏み出せているかという点、卒業後の就職や進学に対してはあまり前向きとはいえない生徒が少なくない。希望する進路を問わず、早期(1,2年次)から面接や学科試験の指導を行い、進路意識の高揚を図っていきたい。

II 評価が3.0以上ではあるが前年度より0.3以上下がった項目

項目①	車体点検や交通安全講話、二輪車実技講習会の実施により、交通事故ゼロを目指す。3.5(昨年度比-0.3)
分析と改善策	高評価であり問題はない。
項目②	各種検定への積極的な受検を促し、資格取得とともに自己肯定感の向上につなげる。3.6(-0.3)
分析と改善策	高評価であり問題はない。
項目③	アルバイト就業率を向上させ、社会への適応力を養うとともに、卒業後の就職にもつなげる。3.3(-0.5)
分析と改善策	「定時制」=「就労」という構図が必ずしも正しいわけではないが、就労が許可されていることは定時制の魅力であり、自己の成長を図るために最大限に活用してほしい。責任感や協働力、他者からの承認、社会貢献に対する欲求など、就労によって得られる一つひとつが社会を生き抜く上での肥しとなることを、先輩の体験を通して下級生に伝えられるような仕組みを作っていきたい。
項目④	人権・同和、発達障害研修など、各種研修会に積極的に参加し、本校の教育活動に還元する。3.1(-0.4)
分析と改善策	様々な研修会には担当者を中心に積極的に参加している。研修後に伝達研修を行っているものもあれば、担当者の参加だけで終わっているものもある。資料を配付し昼会で紹介したり、ポータルサイトにあげたりするなど成果を情報共有しあう教職員どうしの関係性や協力体制を築いていきたい。
項目⑤	1年生・保護者への制度周知と、2・3年生の併修生に対する履修状況の確認、必要な指導・支援を行う。3.6(-0.3)
分析と改善策	高評価であり問題はない。併修制度においては通信制の履修状況が芳しくなく単位を修得できない事例がでてきている。3年で卒業できるというところだけに目がいった生徒の安易な選択にならないように心構えをしっかりとさせたい。
項目⑥	パソコン等の整備を進め、ICT機器やクラウドサービスの効果的な活用について研修等を推進する。3.6(-0.3)
分析と改善策	高評価であり問題はない。1,2年前からすると、職員のICT機器の活用能力が上がっている。今後は各人が現状に満足せずに、活用の幅をさらに広げていけるような視点に立っていかなくてはならない。

令和5年度総括

全体としては高い評価であった。(平均3.6(昨年比(以下同じ)+0.1))。学校評議員からも、評価が年々上がっているということ、高い出席率を維持しているところが今の五島高校定時制の姿を映し出しているとの好評価をいただいた。また、志願者が増加傾向にあることに対して、これまで以上に個人面談を充実させ個々の集団や社会への適応力を高め、進路実現につなげていってほしいとの指摘をいただいた。生徒・保護者アンケートの結果も職員による自己評価と同様、昨年度とほぼ同じ結果(生徒アンケート(平均3.3(+0.2))・保護者アンケート(3.8(+0.1)))であった。現在行っている取り組みをベースに、十分に高い評価が得られていない項目などを中心に改善を行っていきたい。 その他特記すべきこととして生徒会に関する項目がある。職員による自己評価では平均で3.9(+0.8)と非常に高い評価を得ているが、生徒アンケートでは2.9(-0.1)と低い評価に留まっている。前年度の分析と改善策にある「生徒を主体とした活動へとシフトしているが、さらに生徒による活動場面を増やしていく必要がある。今後も、教員による支援を行いながら、生徒会と意見交換しながら、生徒会活動の場面を増やしていく。」ことを念頭に学校として取り組み、生徒会役員を中心に活動が活性化し、職員による自己評価3.9という高評価につながった。その一方で生徒アンケートの結果が2.9と低いのは、意欲的に活動する生徒が増えたが、それが生徒会役員などの一部の生徒に留まっており、各生徒の参画には至っていない状況があるからではないかと分析する。今後は、意欲が高まった生徒集団の良い影響を全体に波及させながら、全生徒がより多くの活動や活躍の場面を経験できるように、教育活動の企画運営を行っていく必要がある。生徒一人ひとりの協働力や社会性を高め、それを自己実現に向けて努力しようとする意力に変容させていきたい。
--

*評価の基準 4：十分達成されている 3：おおむね達成されている 2：あまり達成されていない 1：ほとんど達成されていない									
分野	評価項目【担当】	◆目標／○具体的方策	過年度 総括				評価 総括	課題と問題点及びその改善策	
			R2	R3	R4	R5		※評価の低い項目を中心に	
学校経営	教育方針・努力目標【教頭】	◆学校の実態に即した方針や目標を設定・明示し、教職員や保護者・地域の理解の下、その具現化を図る。							
		① 前年度の評価結果や、自校の生徒の実態を踏まえ、適切な教育方針・努力目標を設定する。	3.6	3.8	3.8	3.9	3.9		
		② 教職員の共通理解の下、上記の教育方針や努力目標を生徒・保護者・地域に明確に示す。	3.4	3.8	3.7	3.8	4.0		
		③ 教育方針や努力目標に沿い、その具現化に向けて各分掌や学年の教育活動を行う。	3.3	3.5	3.7	3.9	4.0		

教科指導 【教務】	◆「わかる授業」や「個別指導」の工夫により、基礎学力と基本的な学習内容の定着を図る。						
	① 学習内容を精選して、生徒の興味・関心、習熟度等に応じた「わかる」授業を展開する。	3.4	3.7	3.6	3.6	3.9	
	② 生徒の実態に即した教科書・副教材、ＩＣＴ教材等による効果的な指導法を取り入れる。	3.8	3.8	3.4	3.5	3.8	
	③ 必要に応じて個別指導や学習会を行い、就職・進学等に対応できる基礎学力を養う。	3.7	3.5	3.4	3.4	3.8	
総合的な探究の時間 【教務】	◆ふるさとに対する誇りと愛着、ふるさとに貢献したいという意識を醸成する。						
	① 明確なねらいをもとに学習活動計画を作成するとともに、地域の人材や関係機関との連携を図る。	3.5	3.8	3.8	3.6	3.9	
	② 毎時間「振り返りシート（統一様式）」による生徒自己評価を行い、活動を充実させる。	3.3	3.7	3.6	2.9	3.0	タブレットを活用し授業時間内に実施できなくても後から各自でできるような統一様式を検討する。
特別活動 【生徒会】	◆HR活動・生徒会活動・学校行事を効果的に実施し、生徒の自主的・協働的な活動を促す。						
	① 「個」を理解し、各種行事において生徒個々がその特性を発揮できる機会を設ける。	2.9	3.1	3.2	3.9	3.9	今後さらに生徒個々の特性が発揮できるような機会を考えていきたい。
	② 生徒の自主性や協働性を引き出すという視点から、生徒会活動や諸行事の充実を図る。	2.8	3.0	3.0	3.9	3.9	今後は一部の生徒だけではなく、全ての生徒の自主性や協働性が引き出せるようにしていきたい。
教 育	◆生徒の安心・安全を確保し、個性尊重のもと、全教職員で基本的生活習慣を身につけさせる。						
	① 遅刻・欠席、言葉遣いや授業規律、容儀等の指導を通して、時・場・礼を理解した言動に導く。	3.0	3.2	2.9	3.5	3.5	一部の生徒の欠席が目立ったが、出席状況はおおむね良好であった。制服の着こなしや言葉遣いの改善に努めたい。
	② スマホやタブレット等の利用マナーやルールを守り、自他の人格を尊重する態度を育成する。	3.2	3.7	3.3	3.9	3.8	スマホのルールを考える・情報モラル講習会などを実施し、生徒の意識高揚に努めたが、一部生徒のマナー違反が散見された。更なる啓発に努めたい。
	③ 車体点検や交通安全講話、二輪車実技講習会の実施により、交通事故ゼロを目指す。	3.9	3.8	3.8	3.5	3.8	学期に１度自転車点検を実施した。また、交通講話で交通事故の現状や自転車運転の危険性などを伝えることができた。
活 動	◆早期からの系統的・効果的な進路指導を行い、卒業予定者の希望進路の実現を図る。						
	① 「進路のしおり」や「キャリアパスポート」を活用し、早期から進路意識を育成する。	3.7	3.5	3.0	2.9	3.1	「進路のしおり」の再編中です。
	② 各種検定への積極的な受検を促し、資格取得とともに自己肯定感の向上につなげる。	3.4	3.0	3.9	3.6	3.6	
	③ アルバイト就業率を向上させ、社会への適応力を養うとともに、卒業後の就職にもつなげる。	3.2	3.6	3.8	3.3	3.8	
	④ 模擬面接や学科試験対策など（個別指導）を充実させ、各自の進路実現に必要な力を養う。	3.6	3.1	3.0	2.9	3.6	
健康・安全 教育 ・保健相 談・特別支 援教育 【保健相 談】	◆心身の健康増進を図るとともに、早期治療や体調管理など健康や安全に対する態度を醸成する。						
	① 定期的な生徒情報の共有とともに、問題解決に向けて保護者やＳＣ・ＳＳＷ、関係機関との連携を図る。	3.9	3.9	4.0	3.9	4.0	
	② 保護者・関係機関と連携し疾病の早期発見・治療に努め、保健だよりを通して啓発的指導を行う。また、生活習慣（食事やリズム）に対する啓発的指導を行い、健康増進を図る。	3.9	3.6	3.7	4.0	4.0	
	③ 清掃活動を通して、環境美化意識と環境保全への意識向上を図る。	3.2	3.5	3.5	3.4	3.4	保健美化委員会の活動として啓発ポスターやペットボトルキャップ回収を行った。次年度以降も継続し、活動の浸透と意識づけに努める。清掃活動との関連づけが次年度に向けた課題である。
人権・同 和、 道徳教育 【教務】	◆人権尊重に関する様々な課題を認識させ、自ら学び・考える態度および思いやりの心を育成する。						
	① 時宜を得た講話や適切な資料等を使用して、啓発的指導を行う。	3.4	3.3	3.5	3.6	3.9	
	② 人権・同和、発達障害研修など、各種研修会に積極的に参加し、本校の教育活動に還元する。	2.8	3.2	3.5	3.1	3.1	
定通併修制 度 【教務】	◆鳴滝高校通信制との併修制度利用によって、卒業単位修得を促す。						
	① １年生・保護者への制度周知と、２・３年生の併修生に対する履修状況の確認、必要な指導・支援を行う。	3.7	3.1	3.9	3.6	3.9	
	② 定通併修制度による「３カ年修了」の対外的な広報に努める。	3.8	3.7	3.6	3.6	3.9	制度の周知は必要であるが、促進するものでもないという意見もある。（４年かけて生徒を育てていくことが前提では？）
組 織 運 営	◆適切な役割分担による仕事の処理および組織的な活動と運営を推進する。						
	① 適切な役割分担のもと、前年度の各分掌の課題を確認し、その解決を図るよう努力する。	3.3	3.3	3.3	3.7	3.9	
	② 組織的・計画的に資料等の保存を行うとともに、分掌間の連携により業務を円滑に遂行する。	3.6	3.5	3.4	3.6	3.9	
	◆目的に応じた適切な委員会の設置と、その活動の効率化と活性化を図る。						
	① 働き方改革の一環として、各委員会の効率的な運用を図る。	3.0	3.4	3.5	3.7	3.8	
	◆組織的・計画的な研修体制づくりと研修への積極的な参加により、教職員の資質向上を図る。						
	① 計画的に授業参観や研究授業等の機会を設け、授業改善・教育実践力の向上に努める。	3.6	3.2	3.3	3.8	3.4	相互授業参観の方法を見直す。
教 育 環 境	◆教育活動が円滑に行われ教育効果が上がるように、学校環境、施設設備の整備を図る。						
	① 学校環境や施設設備について、定期的に安全点検や補修・購入等を行い、有効に活用する。	3.9	3.6	3.9	4.0	3.9	
	◆パソコン等を使った校務処理を積極的に推進するとともに、情報セキュリティを徹底する。						
	① パソコン等の整備を進め、ＩＣＴ機器やクラウドサービスの効果的な活用について研修等を推進する。	3.1	3.8	3.9	3.6	3.5	
	② 個人情報の管理や、情報資産の校外への持ち出し禁止などのルールを全職員が遵守する。	3.8	3.9	4.0	4.0	3.9	

開 か れ た 学 校 づ く り と 志 願 者 増 へ の 取 組	保護者との 連携	◆PTA活動の充実を図るとともに、生徒に関する情報を相互に提供する協力体制を確立する。								
		① 学校と保護者が緊密に連絡・情報提供を行い、生徒の生活指導・進路指導に活かす。	3.5	3.6	3.6	3.7	3.9			
	地域や関係 機関との連 携	◆地域や関係機関との連携を深めるとともに、外部講師など地域教育力の積極的活用を図る。								
		① 地域や関係機関との連携により、在籍生徒に対する適切な理解と支援に結びつける。	3.9	3.6	3.7	3.6	4.0			
		② 地域教育力を活用し、人生観、職業観、郷土愛などを育むような講話・講習の機会を設ける。	3.8	3.7	3.7	3.6	4.0			
	情報提供の 充実	◆教育方針や教育活動、学校評価の結果などの情報を保護者・雇用主・地域へ積極的に提供する。								
		① 学校だより「星空の城」の発行やHPの更新により、定時制の魅力や情報を発信する。	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0			
		② PTA総会や学校説明会などの機会に紹介できるよう、学校紹介の内容を工夫・充実させる。	3.6	3.9	3.7	3.9	3.9			
		③ 地域の中学校に対して、本校定時制入学の利点に関する情報を積極的に提供する。	3.5	3.8	3.6	3.8	4.0			
最 優 先 課 題	基礎学力の 定着	◆基礎学力の定着とその評価体制を整える。								
		① 「基礎学力考査」が生徒の実態のチェックとフィードバックに資するものとなるように、基礎学力についての議論を深め、より良く改善していく。				3.0	3.3	3.3		
	卒業後の 「生きる 力」「生き 抜く力」の 育成	◆卒業後の就職定着のために必要となる、生徒のコミュニケーション力の向上を図る。								
		① 対人関係形成力向上に資する目標を個別に設定して指導し、その評価・改善を行う。					2.9	3.1	3.1	
		平均		3.5	3.5	3.5	3.6	3.7		

<今年度（R6年度）の分析と改善策>

- I 3.0を下回ったもの ※なし
- II 評価が3.0以上ではあるが前年度より0.3以上下がった項目

項目①	計画的に授業参観や研究授業等の機会を設け、授業改善・教育実践力の向上に努める。3.4(昨年度比-0.4)
分析と改善策	相互授業参観の期間が設定されているもののあまり機能しなかった。方法を見直す必要がある。全日制で実施される研究授業への参加も画策しながら対応していきたい。

令和6年度総括

全体としては高い評価であった。（平均3.7(昨年比(以下同じ)+0.1)）。全校生徒が増加傾向にあり、国公立大学進学を目指す生徒から学び直しを目的とする生徒まで学力差が大きく、個別の対応が必要である。また、生活習慣や情緒面、家庭環境など、学習以外で抱える課題も多様で、個に応じた対応や支援がますます重要になってきている。学校評議員の方からも、新入生に活発な生徒、大人しい生徒が混在する中、うまく融合できていることを評価される一方で、多様な生徒に対応する上での人材育成、研修による教員のスキルアップが重要であることを指摘された。上記の「II評価が3.0以上ではあるが前年度より0.3以上下がった項目」として唯一下がった項目①は、まさに教員の研修に関わる内容である。授業力向上はもちろん、教科指導力、生徒指導力、教育相談力、特別支援の知識やスキル等、多方面において研修を積み、個々の生徒に対して効果的な指導や手の届く支援ができるように努めていきたい。 生徒アンケートの結果は3.4(+0.1)であった。昨年度の評価が低く(2.9)、課題として掲げた「あなたは、生徒会行事や学校行事に積極的に参加している。」に対する評価が3.4(+0.5)と大幅に改善した。生徒会活動は昨年度から活発になってきたが、意欲的に活動しているのは生徒会役員の中の一部の生徒に留まっていた。これが全体へ波及したことは大きな成果といえる。今後は、生徒一人ひとりの参画に加え、外部機関との連携や他校との交流などによりさらなる活性化を図りたい。 保護者アンケートの結果は3.7(-0.1)と高評価であった。現在行っている取り組みをベースに、「進学や就職の情報提供」や「わかりやすい授業の工夫」といった、昨年度から評価を落とした項目を中心に改善を行っていきたい。
